

2023年度（令和5年度）事業報告

生活支援宿泊所 生活ホーム

1 施設を取り巻く現状と課題

(1) 事業の種類及び利用定員

生活支援宿泊事業：0名

大分県生活困窮者就労訓練事業：1名

居室確保事業(体験的宿泊事業)：1名

(2) 県市町村等からの受託、補助事業等

令和5年度由布市生活困窮者支援活動準備事業

由布市補助金：481,610円

(3) 地域における公益的な取組

久保更生園が企画した「子ども工作教室」の場所提供 12/17

(4) 運営方針に対して

社会福祉法の趣旨に基づき、利用者一人ひとりの意思及び人格を尊重し、障害の有無に関わらず対象者・児の居宅における生活への復帰を念頭に、その有する能力に応じて自立した日常生活を営むことができるよう多種職・多機関と繋がりながら宿泊の有無にかかわらず本人の意向に沿った支援を提供してきました。

施設の実施策と取り組み状況

(1) 職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり

ア 福祉・介護業界のイメージアップを図り、多様な働き方を推進する。

実施施策	困窮者の受け入れおよび支援
現状と課題	様々な背景から生活に困窮している方々の支援
取組の方向性	自立相談支援事業所などから依頼を受け、対象者の困りを把握し、課題を整理しながら、必要な関係機関に繋ぎ段階的に支援していく
取組の結果	「自由に生きたい」という持論を展開し、定職に就かず困窮していたケースや、たばこの不始末で住む家をなくしたケース、病気で職を失い職場の寮を出なくてはいけなくなったケースについて、由布市福祉事務所や由布社協、相談支援事業所などと連携しながら、生活の場にGH やアパートを就労の場に B 型作業所へ移行することができました

イ OJT 制度を中核に職員一人ひとりを育成し、チームケアを推進する。

実施施策	一人で抱え込まない業務分担
現状と課題	様々な背景から生じる事例への対応
取組の方向性	事業所内で事例を共有し、本人を中心としたケアマネジメントが展開できるよう GSV を通じて、困難事例の支援方法のヒントや連携していく関係機関先を探っていく
取組状況	事業所内で事例を共有し、本人を中心としたケアマネジメントが展開できるよう GSV を通じて、課題を整理しいくつかの選択肢の中から支援に繋げ修正を繰り返しながら、生活の場の確保や就労の場の確保に繋がりました

ウ 職場風土を改善し、職員の定着率とモチベーションを高める。

実施施策	課題解決のプロセスを楽しむ
現状と課題	対象者自身の強みに着目する
取組の方向性	社会とのつながりの中で対象者自身が社会資源を活用できるように支援していく中で多種職・多機関と繋がっていくことで職員個々のスキルアップとなり個々のモチベーションを高め、やりがいに繋がっていく
取組状況	事案に応じて、法人内の事業所や由布市福祉事務所、由布市社会福祉協議会などと連携し、段階的に対象者と関わる中で将来の方向性が見えてきて、職員のやりがいに繋がりました

エ 業務の生産性を高め、ワークライフバランスを推進する。

実施施策	ICT 活用
現状と課題	わかりやすい情報提供
取組の方向性	視覚から情報を得ることを得意としている対象者について、画像やアニメーションなどを多様化した相談内容のフィードバックを行うことで、円滑なコミュニケーションに期待する
取組状況	タブレットを使って、対象者の見学する GH や B 型事業所の HP を見ていただき、見学していただく事業所やアパートのイメージ作りに役立ちました

(2)利用者児の生活を支えるサービスの質の向上

ア 先進的で魅力あるサービスを提供し、サービスの質を高める。

実施施策	生活支援者の受け入れおよび支援
現状と課題	様々な背景から生活に課題を抱えている方々の支援
取組の方向性	自立相談支援事業所などから依頼を受け、対象者の困りを把握し、課題を整理しながら、必要な関係機関に繋ぎ段階的に支援していく
取組状況	由布市社会福祉協議会が行う自立相談支援事業所から依頼を受けた、パニック障害や、足の不自由な対象者について、法人内の事業所と連携しながら対象者の特性に応じた支援が展開できました

イ 安心安全で快適な暮らしを保証し、利用者児の満足度を高める。

実施施策	多種職・多機関との連携
現状と課題	多岐にわたる生活困窮状況やその背景に対応できるスキルを身に着ける
取組の方向性	変化する社会情勢を意識しながら、就労・住宅・医療・教育・福祉など多種職・多機関に導けるスキルや課題を整理できるスキルを各種研修会を受講するなどし、身に付けていく
取組状況	「第1回由布市居住支援ネットワーク会議」「由布市巨樹支援セミナー」に出席し、由布市地域包括支援センターや社会福祉法人、居住支援法人、大分県土木事務所との顔合わせや他市の居住支援の取り組みや、課題を共有しました

ウ 施設機能を積極的に開放し、地域とのつながりを強化する。

実施施策	施設設備の開放
現状と課題	生活支援者などの利用のない空所時の活用
取組の方向性	地域や福祉施設などが企画した行事などの利用や宿泊体験の場として提供していく
取組状況	法人内の事業者が企画した「子ども工作教室」の工作会場の提供をしました。また、「居室確保事業(体験的宿泊事業)」を由布市と契約を締結し、1事案であります。ひとり暮らしを希望する対象者のサポートができました

(3) 安定的で持続的な経営基盤の確立

ア 収入の安定確保と経費増大の抑制で、安定性の高い財務体質を維持する。

実施施策	各関係機関との連携
現状と課題	対象者の困りごとに応じた対応
取組の方向性	宿泊所利用の有無にかかわらず、対象者の困りごとを整理し、必要な支援を段階的に提供していく
取組状況	由布市福祉事務所や由布市社会福祉協議会、医療機関、B型事業所などと連携しながら、「火事で住む家をなくした事案」、「自由に生きたいと詩論を展開する事案」、「多額な借金があり困窮している事案」、「病気で職を失い職場の寮を退居しなければならなくなった事案」に対応し、それぞれ福祉や居住支援法人と繋がりました

イ 中長期的な視点をもって、持続性の高い経営を行う。

実施施策	居室確保事業の事業所登録
現状と課題	由布市が進める「地域生活支援拠点」の機能の一つ「体験の機会・場」の整備が進められている
取組の方向性	今年度は、由布市や自立相談支援機関などと連携し、対象者を受け入れ、対象者との信頼関係を構築しながら、無料 Wi-Fi を使用しての職探しや、施設設備を活用した入浴提供、法人内の給食センターと連携した弁当配付を行っていく
取組状況	令和5年度由布市生活困窮者支援活動準備事業を利用して、Wi-Fi ルーター、回線、こたつ、パーテーション、洗濯機、BDレコーダー、電池、保存食、学用品の購入ができました

ウ 組織内の連携を強化し、強固な組織体制と経営基盤を確立する。

実施施策	自立相談支援機関と法人内の事業所とのパイプ役
現状と課題	大分県生活困窮者就労訓練事業の利用
取組の方向性	大分県生活困窮者就労訓練事業の対象者の紹介を自立相談支援機関から受け、事前打ち合わせで得た対象者の情報を鑑み法人内の大分県生活困窮者就労訓練事業に認定された事業所に繋ぎ、その訓練状況を自立相談支援機関と共有しながら支援を深めていく
取組状況	由布市社会福祉協議会が行う自立相談支援機関から、大分県生活困窮者就労訓練事業の男性対象者1名、女性対象者1名の紹介を受け、由布市福祉事務所との支援会議でその課題を共有し、訓練登録している就労継続支援事業所に繋げ、一般就労や福祉就労に繋がった。

実績利用率

事業名	定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均/月
生活支援 宿泊事業	4名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
大分県生活困 窮者就労訓練 事業	8名	0名	0名	0名	0名	0名	1名	0名	0名	0名	0名	1名	1名	0.3名
居室確保事業 (体験の宿泊事 業)	2名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	1名	0.1名

固定資産物品購入計画

(単位：千円)

名 称	購入業者	執行額	完了日
なし			

修繕計画(大規模修繕を除く)

(単位：千円)

名 称	請負業者	執行額	完了日
桜・クスノキ伐採	おおいた森林組合	178.75	令和5年9月22日

大規模修繕計画

(単位：千円)

名 称	請負業者	執行額	完了日
なし			